



## 本会記事

### ■広報委員会だより 第6回「おもしろ科学教室」(名古屋大学)での出展

好天に恵まれた三連休の最終日1月13日(祝), 名古屋大学東山キャンパスにて行われました, 第6回「おもしろ科学教室」における展示・実演の報告です。このイベントは, 将来の日本の発展の原動力となるべき次世代科学技術を担う青少年への啓発を目的とし, 本学会の他, 11の学協会等団体が連携して主催したものです。約500名の親子連れが来場し, 4つのグループに分かれて工作教室に挑戦し, また講演会も行われました。本学会は, ブース展示を担当し, 例年通り各大学, 研究所にご協力いただき持ち寄った以下の展示・実演を行い, 室賀健夫常務理事, 永津雅章広報委員長, 以下, 中村圭二, 北野勝久, 水口直紀の各広報委員および事務局から石山さん, 杉山さんが案内にあたりました。

- 超伝導磁気浮上列車 (核融合研)  
高温超伝導体を取り付けた列車模型を, 液体窒素で冷却し, 永久磁石で作られた周回レール上に数ミリ浮かせた状態でピン留め効果により保持させ, 走行する。
- プラズマボール (核融合研)  
装飾品として市販されているプラズマボールを3種展示。また近づけた蛍光管が光る様子も観察する。手軽に「プラズマを見る」ことができる。
- 注射器型火花放電装置 (核融合研)  
注射器内に電極を置き, 数kVの電圧を印加した状態で, 注射器を手で引いて減圧すると, 火花放電が生じる。自分の手で「プラズマを作る」ことができる。
- 大気圧低温プラズマジェット装置 (大阪大・北野先生)  
大気圧下でヘリウムガス流に低周波高電圧を印加することで, 数cmにまで伸びるプラズマ柱を生成する。「プラズマに触れる」ことができる。
- 人工ダイヤモンド氷カッター (原子力機構)  
ジャイロトロンを引き出し窓に使用される人工ダイヤモンド板を素手で温め, 氷の上に乗せると, ダイヤモンドの高い熱伝導率によりダイヤに溜まった熱が氷に伝わ

り, 手に瞬時に冷感が伝わるとともに, 氷は滑らかに溶け切れる。

- プラズマ・エネルギーに関するクイズ (本学会)  
広報委員会で作製した小中学生向けの教材。
- パンフレット類 (本学会, 核融合研, 原子力機構)  
専門的な内容の冊子であっても, 身近な展示物を見た直後ならば手に取ってもらいやすい。今回は核融合研で制作された絵本も人気であった。  
どの展示にも人だかりができ, 約4時間にわたり皆さんに楽しみながら学んでいただけたようです。今回の最年少のお客様は, 2歳の女の子で, 超伝導列車を飽きることなく手を叩きながら見ていた姿が印象的でした。彼女が大きくなって, 本物の超電導リニア新幹線を見る頃には, プラズマ・核融合分野はどのような進展を遂げているのでしょうか。

会員以外の広く社会に向けた情報発信を目的としてスタートしたこのような広報イベントも, 6年目となりました。最近では, 夏と冬にそれぞれ東京地区と名古屋地区で展示・実演を行っています。これらの活動については本誌記事でもお知らせしてまいりましたので, 詳細は過去の記事をご参照ください。会員の皆様の所属大学・機関におかれましても, それぞれ社会要請を満たすべく, 広報活動を展開されていることと思いますが, 学会としてはどのような形をとりうるのか, 今後も検討しながら, 進めてまいりたいと思います。それぞれの機関の事情には左右されない, 純粋な学問の情報発信の場として, 活用の提案等がございましたら, 是非お近くの委員までお届けください。

今回の出展にあたり, 豊田高専校長高井吉明先生, 名古屋大学大野哲靖先生はじめ, 実行スタッフの先生方, 中部大, 名古屋大の学生の皆様には, 準備段階から当日の運営にいたるまで大変お世話になりました。また展示物については, 日本原子力研究開発機構, 核融合科学研究所, 名古屋大学, 大阪大学の各位よりご提供いただきました。ご協力に感謝いたします。

(広報委員会 水口直紀)



写真1 会場の様子



写真2 「人工ダイヤモンド氷カッター」



写真3 終了後の会場でスタッフ一同